

Campus Today



松本歯科大学
発行所 学校法人 松本歯科大学
長野県塩尻市広丘郷原1780
☎ (0263) 52-3100
www.mdu.ac.jp
1部60円

映画『神様のカルテ2』に本学が撮影協力

環境・設備が充実し多彩なロケーションの本学 映画やドラマの撮影依頼が相次ぐ

若き医師を主人公にした映画『神様のカルテ2』が3月21日(金・祝)から公開される。その製作にあたり、本学は撮影に協力した。昨年2月、櫻井翔さんら出演俳優をはじめスタッフ約70人、車両約20台が本学に集結し、大学の各施設で撮影が行われた。映画では数シーンにわたって、本学関係者にとって馴染み深い場所が登場することになる。



宮澤美保さんと佐藤二朗さんが出演した撮影シーン(上) / 本館6階で撮影準備をするスタッフ(下)

この映画は、国民的アイドルグループ・嵐の櫻井さんが主演を務め2012年に公開されて大ヒットを記録した『神様のカルテ』の続編。夏川草介氏(長野在住の現役医師)による同名小説が原作で、前作は実直で心優しい内科医が地方医療の厳しい現実と直面しながらも末期ガン患者と向き合い成長していく姿が共感を呼び、観客動員158万人、興行収入18億9千万円を記録した。

この映画は、国民的アイドルグループ・嵐の櫻井さんが主演を務め2012年に公開されて大ヒットを記録した『神様のカルテ』の続編。夏川草介氏(長野在住の現役医師)による同名小説が原作で、前作は実直で心優しい内科医が地方医療の厳しい現実と直面しながらも末期ガン患者と向き合い成長していく姿が共感を呼び、観客動員158万人、興行収入18億9千万円を記録した。

のクラウンイン前には深川監督以下スタッフ数人が下見に訪れ、本学はロケ地として前々から候補に挙がっていたが、今回の『2』で撮影が実現した。



本館北棟売店では特別前売り券を販売中

ロケ地は本学のほか、松本市内各所、あがたの森文化会館、美ヶ原高原などでも撮影され、美しい自然に囲まれた信州・松

本の風景をあますところなく伝えていく。松本観光コンベンション協会は、作品で描かれたシーンとロケ地情報を記載したパンフレットを作成し、公開に合わせて配布する予定。松本市は、前作や山岳救助を題材にした『岳ガク』(小栗旬さん主演)に続いて、『神様のカルテ2』を観光振興に寄与する映画として「松本シネマ」第3号に認定し、観光客誘致に力を入れる。

お天気歳時記

元日本気象協会調査役
お天気コンサルタント
ありが 厚し
清

「催花雨」とも呼んでいる。3月は、四分六の割で四分は寒さの残る季節で、このころの寒さを「寒の戻り」と呼ぶが、お隣の韓国では「花をねたむ寒さ」と呼ぶそう。

共用試験 CBT 第4 学年生が受験 320 問に真剣に取り組む

2013年度共用試験CBT(Computer Based Testing: コンピュータによる客観試験)が2月7日(金)、キャンパスイン101教室で行われ、第4学年生54人が受験した。

共用試験実施評価機構からモニター委員として、岡山大学・松本卓也教授と日本歯科大学・松野智宣准教授に、本学の試験が厳正に実施されているかをご評価いただいた。

3月、4月の低気圧の通過平均回数を調べてみると、2日おきに通るのが13パーセント、3日おきか20パーセント、4日おきか20パーセントで、3〜4日おきに通るのは約40パーセントと多い。つまり3月は3・5日おきに低気圧が通り、「春に三日の晴れなし」で、天気は周期的に変わりやすい。



緊張した面持ちでCBTに臨む学生たち

客観的臨床能力試験・1月25日(土)に実施。とともに、文部科学省の臨床実習前試験の共用試験として位置付けられており、基本的知識と問題解決能力を評価するものである。

3月、4月の低気圧の通過平均回数を調べてみると、2日おきに通るのが13パーセント、3日おきか20パーセント、4日おきか20パーセントで、3〜4日おきに通るのは約40パーセントと多い。つまり3月は3・5日おきに低気圧が通り、「春に三日の晴れなし」で、天気は周期的に変わりやすい。

主張

外科が「ソト科」であった時代

医学・医療は外科系と内科系に2大別される。開腹手術などからだの内部にメスを加えるのが外科で、聴診や打診など、からだの外側からの診察に頼っているのが内科だから、現代の感覚からすると、名称的には逆転しているように思われる。

ところが、医学の歴史を学んでみれば、わずかに百数十年前までは、外科は文字どおりにからだの外側のみを治療対象とした「ソト科」だったことが分かる。古代においては、病気が神や悪霊などの超自然的存在の影響と考えられていた。神や仏などの怒りをなだめ、それらの救済を求めするために祈りを捧げる神官や僧侶、あるいは悪霊を払う呪い師や魔法使いが最初の医療者であった。彼らは神などの超自然的存在の権威を背景にした高貴な身分を誇示して治療にあ

たっていたから、ガウンやマントなどその身分にふさわしい容儀や服装をも整えていた。いわゆる「長衣の医者」であり、手塚治虫の漫画「ブラックジャック」の主人公の服装にもその名残がみられる。

一方、現実の生活場面では、外科的医療が求められることも少なくはなかった。闘争や事故での外傷、とりわけ絶え間なく繰り返されてきた戦争では、大量の負傷者が出て、矢を抜いたり、出血を止めたりする医療行為が欠かせない。傷が化膿して腫れ上がれば切開して排膿する必要もあるし、イボなどの腫瘍の切除も求められる。強烈な歯の痛みに対しては、長らく抜歯が唯一絶対の治療法であった。

このような医療行為では、術者が血や膿にまみれることは避けられない。高貴な「長衣の医

者」(中世の西欧においてはほとんどが聖職者を兼ねていた)が、そうした汚物に手を触れることを好むはずもなかった。聖ヒポクラテスの有名な「誓い」のなかにも「結石の手術は神にかけてしない。それを業とする者に委ねる」との一節がある。そのような「卑しい仕事」は医師ではなく格下の職人に任せるべきものとされていたのである。

近世以前の西欧で実際に上記のような外科的医療を担当していたのは、剃刀を使い慣れていた床屋であった。腫瘍の切除や抜歯はもとより、結石による尿閉で七転八倒している患者には会陰部に切り込んでの手術(死亡率高かったが…)も行われた。現代の理髪店の前のサインポールは、赤い動脈、青い静脈、白い包帯を表していて、昔の床屋医者 barber-surgeon の名残

である。彼らはその仕事着から「短衣の医者」と呼ばれた。ただし、「短衣の医者」の仕事の対象は、「からだの外側」に限定されていた。体内の内臓などに安易に手を触れることは絶対的な禁忌であった。無菌状態の腹腔内などへの感染は、20世紀以降に有効な抗菌薬が登場するまでは、確実に致命的な結果となったからである。わが国の「切腹」が死と同義とされていたのも当然であり、帝王切開は母親の命を捨てて胎児を助ける究極の選択であった。19世紀末になるまでは、開腹手術は殺人行為と同然であったから、虫様突起炎(いわゆる盲腸炎)で死ぬ人が少なくはなかった事実がある。

19世紀半ばに、2つの新技術「麻酔と防腐法」によって外科医療に革命が生じた。いわゆる「外科の夜明け」である。アメリカの2人の歯科医師、ウェルズとモートンが発見した全身麻酔法が、いかなる大手術でも痛みとショックを最小限なものとする

ことを可能にした。それまではほぼ必然的な術後合併症と考えられていた感染も、病原微生物の存在を認識した外科医たちが、防腐法(消毒法)さらには無菌法を採用するようになったことで、確実に防止できるようになった。かくして、かつては絶対に手を触れてはならないとされてきた内臓などからだの内

部も、外科医療の主要な対象となり、外科医の社会的な評価も高まっていったのである。さて、外科系医療に一翼を位置づけられる歯科医療であるが、現時点は百数十年前の外科と同じように「夜明け前」にあると考へたい。人口の高齢化が進行するなかで、人びとの医療への期待は「延命」から「QOLの維持向上」へと様変わりしつつある。再生医療や3Dプリンターといった革新的技術は、歯科医療を大きく変貌させていくに違いない。古い「常識」に囚われずに、新しい歯科医療の地平を拓くことを、とくに若い諸君に期待したい。(笠原 浩)

2週連続の記録的大雪 キャンパスは白一色

やまず、10日(月)の朝まで泊りがけでの除雪作業となった。さらに14日(金)から翌15日(土)にかけて、またまた南岸低気圧の影響で東日本を中心に雪が降り続き、松本・木曾地方をドカ雪が襲った。長野地方気象台によると松本市では8日の残雪と合わせて積雪75センチを観測し、86年ぶりに2月の積雪記録を更新した。

本学では前週と同様に、大雪除雪車や小型除雪機がフル稼働。17日(月)の通学・出勤時にはキャンパスの主な道は除雪がゆき届いて支障はなかったが、あまりの雪の多さに作業は14日夕刻から18日(火)まで連日続けられた。かいた雪は大学内の各所にうず高く積み、白い壁をつくった。学生寮キャンパスインの通路は除雪機を使わずスコラサービスの社員が総出で雪かきをした。

学生たちは2週連続の大雪に驚いた様子で、白い雪道を踏みしめて大学に通い、進級試験などを控えて勉強に励んでいた。

先月、関東甲信地方は記録的な豪雪に見舞われ、国道などで何百台の車が動かない状況になりました。その週末に東京に出かけていた家内も、高速バスや中央線の電車も運休になったため、松本に帰って来れなくなりました。

ちょうどこのことがあったので、今から30年前ごろ私の経験したことを思い出しました。その時、特急あずさで東京から塩尻に向かっていたのですが、竜王という駅の付近(山梨県)で雪のため電車が立ち往生して、そこで一晩過ごすことになりました。塩尻に着いたのは予定時間の大体24時間後でした。

今回もニュースで長野県をはじめ、埼玉県や群馬県でも大勢の人が電車のなかで一晩を明かしたとありましたが、本当に大変だったと思います。私の時もお弁当が配られ、真夜中にどこかの新聞記者の人が乗って来て取材の写真を撮っていたのを覚えています。

実は、私はこの時初めて「立ち往生」という日本語を覚えました。英語では、次のように言います。

Trains were brought to a standstill due to heavy snow. (列車は大雪のため立ち往生した。)

Cars and trucks were stuck on the expressway. (車やトラックは高速道路で動けなくなりました。)



未曾有の大雪に大学除雪車両がフル稼働



道の両脇に積まれた雪は壁のよう

口腔生化学講座・宇田川信之教授 徳島大学大学院ミニトリートで特別講演 ～「骨とカルシウム」クラスター～



ミニトリートの参加者(中央が宇田川教授)

大寒のなか、1月31日(金)から2日間にわたり、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス

研究部が主催する大学院教育プログラムとして、淡路島洲本温泉にて大学院ミニトリートが

開催され、特別講演の演者として、本学口腔生化学講座・宇田川信之教授(学長補佐)が参加した。

徳島大学は、医学・歯学・薬学・栄養学・保健学に跨る医療系大学院教育の組織横断的教育支援プログラムの推進のため、6つの部門に分かれたミニトリートとよばれる講演会を実施している。今回、徳島大学口腔顎顔面矯正学分野の田中栄二教授が代表世話人として開催した「骨とカルシウム」クラスターにおいて、宇田川教授は「生命を支えている臓器としての骨組織―歯周疾患と骨粗鬆症との関連―」と題する特別講演を行い大変好評であった。

また、宇田川教授は院生10人の研究発表に対してのアドバイザを務めた。歯学分野のみならず、医学や栄養学を専攻している院生が発見した骨・カルシウム・筋肉・脂質代謝に関する基礎的・臨床応用的研究内容は、とてもレベルが高いものであり、優秀発表者3人が選ばれた。

東京医科歯科大の研究グループ 骨の量を調節する遺伝子発見

骨粗鬆症は、骨が減る病気で、骨を作る量が増えるかある。骨を溶かす量が増えれば骨粗鬆症になる。

東京医科歯科大学の野田政樹教授・江面陽一准教授の研究グループ、沖縄科学技術大学院大学と本学総合歯科医学研究所の小林泰浩准教授らは、骨の量を調節する遺伝子を発見し、2月4日(火)

「リトリート」とは、日常生活から離れ議論などに没頭する場所を示す言葉で、この講演会では外部講師、指導教員および院生が自由かつ活発に討論を繰り広げていた。

「リトリート」とは、日常生活から離れ議論などに没頭する場所を示す言葉で、この講演会では外部講師、指導教員および院生が自由かつ活発に討論を繰り広げていた。

骨粗鬆症は、骨が減る病気で、骨を作る量が増えるかある。骨を溶かす量が増えれば骨粗鬆症になる。

RANKLというタンパク質がその受け手であるRANK受容体に結合すると、破骨細胞になる前段階の細胞は骨を溶かす破骨細胞になる。

東京医科歯科大学の野田教授・江面准教授らは、遺伝子Cno3がRANK受容体を増やす

すぎないようにし、体のなかで破骨細胞が働き過ぎないように調節することを証明した。つまり、Cno3は破骨細胞のできることを抑制する遺伝子であることを発見した。

さらに、Cno3がRANK受容体タンパク質になる前のメッセンジャーRNAを減らすことが分かった。この分子はメッセンジャーRNAの合成を妨害す

やまず、10日(月)の朝まで泊りがけでの除雪作業となった。さらに14日(金)から翌15日(土)にかけて、またまた南岸低気圧の影響で東日本を中心に雪が降り続き、松本・木曾地方をドカ雪が襲った。長野地方気象台によると松本市では8日の残雪と合わせて積雪75センチを観測し、86年ぶりに2月の積雪記録を更新した。

本学では前週と同様に、大雪除雪車や小型除雪機がフル稼働。17日(月)の通学・出勤時にはキャンパスの主な道は除雪がゆき届いて支障はなかったが、あまりの雪の多さに作業は14日夕刻から18日(火)まで連日続けられた。かいた雪は大学内の各所にうず高く積み、白い壁をつくった。学生寮キャンパスインの通路は除雪機を使わずスコラサービスの社員が総出で雪かきをした。

先月、関東甲信地方は記録的な豪雪に見舞われ、国道などで何百台の車が動かない状況になりました。その週末に東京に出かけていた家内も、高速バスや中央線の電車も運休になったため、松本に帰って来れなくなりました。

ちょうどこのことがあったので、今から30年前ごろ私の経験したことを思い出しました。その時、特急あずさで東京から塩尻に向かっていたのですが、竜王という駅の付近(山梨県)で雪のため電車が立ち往生して、そこで一晩過ごすことになりました。塩尻に着いたのは予定時間の大体24時間後でした。

今回もニュースで長野県をはじめ、埼玉県や群馬県でも大勢の人が電車のなかで一晩を明かしたとありましたが、本当に大変だったと思います。私の時もお弁当が配られ、真夜中にどこかの新聞記者の人が乗って来て取材の写真を撮っていたのを覚えています。

先月、関東甲信地方は記録的な豪雪に見舞われ、国道などで何百台の車が動かない状況になりました。その週末に東京に出かけていた家内も、高速バスや中央線の電車も運休になったため、松本に帰って来れなくなりました。

ちょうどこのことがあったので、今から30年前ごろ私の経験したことを思い出しました。その時、特急あずさで東京から塩尻に向かっていたのですが、竜王という駅の付近(山梨県)で雪のため電車が立ち往生して、そこで一晩過ごすことになりました。塩尻に着いたのは予定時間の大体24時間後でした。

今回もニュースで長野県をはじめ、埼玉県や群馬県でも大勢の人が電車のなかで一晩を明かしたとありましたが、本当に大変だったと思います。私の時もお弁当が配られ、真夜中にどこかの新聞記者の人が乗って来て取材の写真を撮っていたのを覚えています。

実は、私はこの時初めて「立ち往生」という日本語を覚えました。英語では、次のように言います。

Trains were brought to a standstill due to heavy snow. (列車は大雪のため立ち往生した。)

Cars and trucks were stuck on the expressway. (車やトラックは高速道路で動けなくなりました。)

カールソンの英語!!!

松本歯科大学市民公開講座 全4回受講の皆さんに受講修了証を授与



受講修了証書を手にした皆さんと増田教授（左）、安東講師（右）

塩尻市と塩尻市教育委員会の後援を受けて1月より市民交流センターで開催している松本歯科大学市民公開講座は2月に2回行われ、1日（土）に障害者歯科学講座の小笠原 正教授が「口腔ケアで健康長寿」、22日（土）に病院総合診療室の安東信行講師が「お子さんのお口は大丈夫？」と題して講演した。全4回を受講した人は8人おり、本学「地域を志向した大学への整備ワーキンググループ」の増田裕次教授から受講修了証が手渡された。

小笠原教授は冒頭で、「よく食べてエネルギー・タンパク質を十分に摂取すれば、身体機能や生活機能、免疫機能を維持でき、要介護状態や重度化を予防、ひいてはQOLの維持・向上につながります」と説き、それには常に口の中の清潔・保湿を心掛けることが重要であると強調した。

また摂食・嚥下障害についても解説し、むせる、声がかすめる、痩せてくる、咳き込むなど嚥下障害を疑う所見がみられた場合は、相談先として長野県摂食・嚥下リハビリテーション実



講演する小笠原教授

染が始まります。ですから、家族全員が自分の口のなかの細菌を減らすよう口腔ケアを心掛け、お子さんやお孫さんの歯を守ってください」と呼びかけた。歯ブラシをベンゲリッパで持ち、細かい振動させる歯磨き方法や、だらだらと間食をせずに栄養バランスのとれた規則正しい食事をするなどなどをアドバイス。フッ素やキシリトールのむし菌予防効果も解説した。

講終了後、修了証を手にした受講者は「この公開講座を通じて、歯の大切さについて認識が深まりました。今後は口腔ケアをしっかり行いたい」と思います」と話していた。

長い臨床経験を見据えて弛まぬ努力を

2013年度病院臨床研修歯科医症例報告会

本学病院にて研修を行っている臨床研修歯科医の症例報告会が2月21日（金）、22日（土）の2日間にわたり、図書館学生ホールにて開催された。

最初に歯周病科科長である吉成伸夫教授より「今行っている症例は、学生時代に学習してきたものとは違う観点から治療を行うことで非常に意義がある。活発な質疑を期待したい」という挨拶をいただいた。



臨床研修歯科医による発表

その後、臨床研修歯科医40人が、各々の臨床研修において1口腔単位にて初診から治療終了まで診査・診断・治療計画立案を含めて関わった症例について、スライドを用いて報告した。発表内容は、全身疾患を有する患者の歯科治療を含む、保険診療を中心とした全身管理を含む、う蝕ならびに歯周病治療から始まり、小外科手術を含み補綴治療に至るまでの多岐にわたる症

例であった。発表は座長として篠原 淳口腔外科科長をはじめとした副プログラム責任者の先生方の進行の下、多岐にわたる症例内容に対しては臨床研修医同志の間でも活発な質疑応答が行われた。

医師・歯科医師・看護師らが腫瘍退縮効果を討論

「がんの樹状細胞ワクチン療法」第6回合同カンファレンス

本学病院では、患者自身の免疫担当細胞を用いてがん細胞を撃退する「樹状細胞ワクチン療法」を2010年5月から開始している。樹状細胞ワクチン療法の前島信也室長（医科院長・内科学教授）と宇田川信之副室長（口腔生化学講座教授）が中心となって、専任スタッフの下で運営しており、現在まで延べ145人の治療にあたり、

信州大学の下平教授からは「今後の新しい樹状細胞療法の方」が提案された。また、「樹状細胞療法におけるEISpot法を用いた免疫モニタリング法の確立」というタイトルで吉澤清司技師（信州大学）による報告が行われ、本療法の新しい特異的免疫誘導の指標としての有用性が示された。



参加者からの質問に答える前島室長（左）

今回のカンファレンスでは、前島室長が「悪性神経腫瘍に対するWT1ペプチドを腫瘍抗原とした樹状細胞ワクチン療法」と題した研究報告を行い、本療法の腫瘍退縮効果について討論することができた。

がんは日本人の死因の第一位で、常に新しい治療法が求め

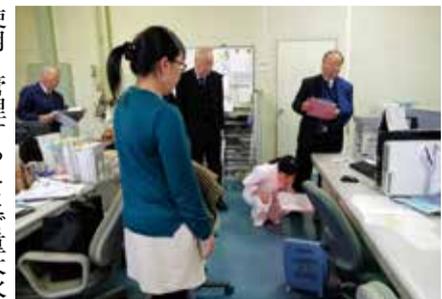
さらに、御子柴嘉穂里看護師（本学樹状細胞ワクチン療法室）が「G-CSF投与によるワクチン製造本数の増強効果」について報告した。

樹状細胞を体外において培養し、患者のがん組織の特徴を認識させてから体内に戻し、リンパ球にその特徴を持つがん細胞を狙って攻撃させる新しいがん免疫療法である。

安全衛生年間計画に基づく職場巡視を実施

火災発生要因となるものを重点的にチェック

1月30日（木）午後2時30分から、安全衛生委員会および管理課課員により2013年度安全衛生年間計画に基づく職場巡視を実施した。



安全衛生委員による職場巡視

研究室を、東棟・西棟の2班に分かれて巡視した。昨年10月に発生した福岡市の整形外科医院での火災事故もあり、火災発生要因となるものを特に重点的にチェックし、補助暖房機器の届出と設置状況が適切か、灯油の

保管方法は適切か、コンセントのタコ足配線により容量オーバーになっていないか、コンセント接続部のほこりの有無などを中心に点検した。

灯油の保管方法については、昨年度から継続して周知・徹底してきたこともあり、保管用コンテナを設置し適切に管理している講座が大多数であったが、なかにはフタを開けて給油ポンプを入れたまま保管している講座も見受けられた。灯油タンクが転倒し灯油がこぼれた際には重大な火災発生のおそれもあるため、職場巡視終了後、その他の指摘事項とともに学内通知にて注意喚起を行った。

（安全衛生委員会 職務課事務員 林 智彦）

Alumni News

松本歯科大学校友会

兵庫県支部主催の兵庫県人会 在学生激励会を開催

解剖学第1講座・金銅英二教授、歯科麻酔学講座・谷山貴一講師、そして一昨年度まで大学に在席されていた播磨宏真先生(32期生)も参加されました。また、6学年生から新1学年生まで、在学中のたくさんの学生が参加しました。



同郷の在学生らが大勢集まった兵庫県人会

恒例のごとく、新1学年生の紹介と挨拶から始まり、上級生まで挨拶をしたあと、ご参加いただきました先生方からお言葉をお賜りました。

最後に、岩本会長が新入生歓迎のお言葉を述べられ、その後、6学年生の方々のことを気になされて、「私は、6学年生の諸君が無事に卒業し、歯科医師国家試験に合格することを応援させていただきます。」と激励されました。

また、金銅教授は「いつでも応援しているので、なにか困ったことがあれば気軽に相談に来てください」と述べられました。いつも学生のことを気にかけてくださっている諸先生方に、学生一人ひとりが感謝の意を申し上げます。

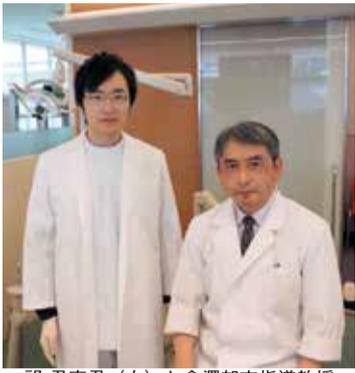
(第3学年 後藤田晋士)

優しさに囲まれ夢を叶える桃源郷

大学院第2学年 祁 君容

日本に来てもうすぐ2年の歳月が流れようとしています。現在、僕は松本歯科大学大学院顎口腔機能制御学講座の臨床機能評価学で「外耳道内圧の変化を用いた顎運動の推定」をテーマに研究しています。この2年間はとも多くのことがあり、僕の人生のなかで大きな歩みとなりました。

まず、僕は自分が非常に幸運だと思っています。僕は多くの留学生と同様にずっと日本に憧れていました。2年前、僕が乗った飛行機が名古屋中部国際空港に着陸し、日本の大地に降り立った時、その瞬間自分の夢が叶えられたという



祁 君容君(左)と倉澤郁文指導教授

実感に包まれました。松本歯科大学では留学生として起る全てに好奇心が湧いてきました。しかし、それらを理解するためにはまず日本語の壁を乗り越えなければなりません。僕は日本に来る前に日本語能力試験N2を取得していましたが、実際来日して感じたのは勉強した能力試験の日本語表現と、周りの人たちが話している言葉が全く違うということでした。幸い大学の先生方がとても熱心で親切であり、辛抱強く大学と研究の概況を私に紹介してくださったので、すんなり学習に取り組むことができました。しかも留学生の日本語能力向上のため、大学が日本語学習クラスを開講してくれました。

松本歯科大学大学院歯学独立研究科は、豊かな創造力を有する研究者を育成しているだけでなく、社会環境への適応力や専門技術の修得を重視しています。大学の教授陣は専門領域に精通していることはもちろんのこと、多方面の幅広い知識を有し、まさに学識が広くて深い先生方であると思いました。院生は自分の研究活動以外に

も各種学会に参加する機会があります。そこでは研究成果を発表するとともに研究に関する最新情報を得ることができ、歯科界の内外の人たちとの交流を経て、知識だけでなく新たな友人とも知り合える大変有意義な機会と思っています。以前とある番組で世界で一番安全な国についてのアンケート調査を見ましたら、その結果は日本がランキング1位でした。僕もこの結果に大賛成で、また実感しています。大学の内外において、いつでも日本人の優しさが感じとれます。長野県特有の美しい自然環境に包まれている松本歯科大学での留学生活は静かですが、孤独感はありません。まるで桃源郷みたいです。僕は、夢のような理想の場所です、必ず自分の夢を叶えてみせます!

父母会韓国支部が発足

留学生父母の活発な交流に期待して

2月23日(日)、父母会韓国支部が発足した。新支部の開設は、留学生の保護者からの強い要望や意見交換の場を求める声にこたえるため、歯学部父母会を中心に昨年より準備が進められてきたものである。

当日、ソウル市内のレストラ「T園」に留学生父母11組17人が集まり、支部会設立を決議し、本学大学院第2学年・洪在潤君(35期生)の母親である李惠蓮氏が満場一致で初代支部会長に指名された。副会長は第6学年生・金我妍さんの母親である李惠淑氏。また本会事務は金敏洙韓国担当部長が



初代支部会長に就任した李氏(前列奥から3人目)

留学生が日本語能力試験に挑戦 4人が最高難易度のN1を取得

2013年度に入学した留学生21人が、昨年7月7日(日)と12月1日(日)に実施された日本語能力試験を受験し、4人が最高難易度のN1を取得した。国際交流基金と日本国際教育支援協会が主催する日本語能力試験(JLPT)は年2回、日本国内のみならず海外21の国と地域で実施され、年間50万人ほどが受験している最大規模の日本語試験である。レベルは最上級のN1からN5まで5段階あり、試験科目は文法・語彙・読解・聴解がある。

本年度より入学初年度の留学生は既にN1を取得している者を除き、4月より月曜から金曜日の5時限目に日本語授業を実施、基礎からしっかりと勉強した。通常授業との同時進行ということもあり、留学生にとっては時間的余裕の少ないなか、みな初年度のうちに日本語レベルを向上させ、実習などにおける言葉の壁を無くすべく一生懸命学習に取り組んだ。その結果、N2以上の日本語力はもろんのこと、残念ながら今回N1を取得できなかった留学生も入学当初より大幅な語学力向上が見られた。

第2学年のアメリカ人留学生リン・クリストファー君は、「今回の成績はラッキーでした。でも1年間がんばってきた努力の成果だと思っ自分



第1学年・朴相敏君 第1学年・慶浩善君
第1学年・呉益翰君 第2学年・リン・クリストファー君

人事異動

〔退職〕 1月31日付
上原由美子 (看護師室看護師)
大澤 愛 (看護師室看護士)

2月6日付
桑沢のどか (放射線検査室放射線技師)
新井 彩 (看護師室看護士)

3月行事予定

- 1日(土) 一般入試(Ⅱ期)
- センター利用入試(Ⅱ期)
- 特待生選考試験(Ⅱ期)
- 編入学試験(Ⅱ期)
- 編入特待生選考試験(B)
- 2日(日) 第23回歯科衛生士国家試験
- 5日(水) 一般入試(Ⅲ期)
- センター利用入試(Ⅲ期)
- 特待生選考試験(Ⅲ期)
- 合格発表
- 19日(水) 一般入試(Ⅳ期)
- センター利用入試(Ⅳ期)
- 特待生選考試験(Ⅳ期)
- 合格発表
- 27日(木) 第23回歯科衛生士国家試験合格発表
- 27日(木) 大学院発表会

Economic News

内外の経済 2月26日付

Table with exchange rates and commodity prices. Includes items like 日本, 米国, 金地金, 白金地金.

Table with exchange rates for various currencies like 米ドル, 英ポンド, ユーロ, etc.

Advertisement for exam preparation with a logo and contact information for the university.